



社会資本整備のアカウントビリティ (説明責任) 行動指針の策定について

国土交通省大臣官房技術調査課



国土交通省では、パブリックインボルブメントの普及に見られるように、施策および事業の実施に当たって情報提供および国民との対話が進められ、アカウントビリティ(説明責任)の重要性が職員に浸透し、実際の業務の中でその取り組みが定着しつつあります。

一方で、施策および事業の実例の中には、必ずしもアカウントビリティを果たすまでには至っていないところもあります。

そこで、現時点での国土交通省のアカウントビリティについての取り組みを評価するため、政策レビューを実施し、課題を整理するとともに、今後、施策および事業を実施していくに当たり、職員がアカウントビリティをより一層果たしていくために認識すべきことを評価書としてとりまとめ

ているところです。

平成18年12月27日から平成19年1月26日までの期間において、「国土交通省のアカウントビリティについて」政策レビュー結果(評価書)(案)に対するパブリックコメントを実施し、広く国民の皆様からのご意見を募集したところ、9件のご意見が寄せられました。

お寄せいただいたご意見の概要とそれに対する国土交通省の考え方について、別紙のとおり紹介します(別紙参照)。

今後は政策レビューで明らかにしたアカウントビリティを果たす上での課題とそれに対する取り組みの方向性を踏まえ、職員に対する具体的な指針となる「社会資本整備のアカウントビリティ向上行動指針」を年度末までに策定する予定です。

(別紙) 「国土交通省のアカウントビリティについて」政策レビュー結果(評価書)(案)に対するご意見の概要とそれに対する国土交通省の考え方

	ご意見の概要	国土交通省の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省が自分達でできていないところを正直に反省し、それを生かして前向きに考えているという点については好感が持てる。 ・このような自己反省的な取り組みは積極的に取り組むべきであり、是非、国土交通省業務に反映させてもらいたい。 ・社会資本整備を進める上で国民に十分理解していただくためにも、国民へのアカウントビリティは必要不可欠である。この政策レビュー(案)をとりまとめることでよい結果が出ることを期待する。 ・今回の政策レビューを読んで国土交通省もいろいろな活動をしていることが分かった。今後もこの努力を続けていただきたい。 ・国民に理解されるように説明することは難しいことであると思うが、それをこなすことによって公共事業が国民に認められると考え、アカウントビリティを果たしていただきたい。 	<p>政策レビューなどにより継続的に取り組み状況を検証しながら、今後もアカウントビリティを果たしていけるよう努力して参ります。</p>

	ご意見の概要	国土交通省の考え方
2	<ul style="list-style-type: none"> 課題として挙げられていることが、一体どのくらいできていないかが分かりにくかったように感じる。 	<p>アカウンタビリティの問題について定量的に述べることは難しいのですが、今回はアンケートによる関連データを示すなどできる限りの努力をしたと考えております。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 「取り組みの方向性」として示していることは、具体的にどう実現していくのか。単なる気持ちの表れや心構えということか。 現代の日本の国民性を、国民が一丸となって目指すものを行政主導で実現して喜ばれた当時とは違うこと、「拝金主義」で代表されるように私欲を追求する風潮にあることなどを考慮にいれ、アカウンタビリティのあり方、国民との対話・コミュニケーションのしくみを追求すべく、具体的な行動指針が策定されることを望む。 	<p>「取り組みの方向性」の実現に向けて、具体的な取り組みを「行動指針」としてまとめたいと考えています。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> 「アカウンタビリティ」という言葉について、どのような意味なのかが国民に浸透していないのでは。「説明責任」でよいと思う。 国民に分かりやすい行政を行うために安易なカタカナ表記や、理解されにくい言葉を多用することを慎む取り組みがなされていると記憶している。年齢や生い立ちに区別なく理解できるよう、「アカウンタビリティ」という言葉はカタカナではない表現に改めるべきではないか。 	<p>アカウンタビリティという表現を単独で用いる場合には「説明責任」などと補足することが考えられますが、今回はアカウンタビリティの定義を示すなどして、みなさまにご理解いただけるような内容であると考え、このままの表現でよいと考えています。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省職員を対象にしているアンケートにおいて回収率が36%というのは低いのではないかと。職員自らの「行政行動」に対する意識が高まればアンケート回収率がアップするのではないかと。 	<p>業務の合間に支障のない範囲でアンケート調査を依頼したため、このような結果となりました。一概に意識が低いとは考えておりません。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> 「広く一般（大多数）に発信可能な手段」として「記者発表やホームページ」が例示されているがここに力を入れた検討を行い、国土交通行政の各種の政策や事業を、「サイレントマジョリティ」なる国民の「関心事」になるような積極的アピールをしていただきたい。 インターネットの普及で10年前に比べれば情報の入手は容易になったがそれでもまだほしい情報を手に入れにくい。国民が容易に入手できるメディアを利用した情報提供を行ったらどうか。 現代社会においてHPの活動も必要であるが、大部分の国民はまだまだHPに無縁な人も多い。HPだけに頼らずマスメディアを通じて進めることも必要ではないか。 	<p>ご意見のとおりメディアを通じた情報提供についても取り組んでいきたいと考えています。メディアの活用は各地方整備局等の現場において検討し、最適な手法を選択するなど引き続き努力をして参ります。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> マスメディアに対して苦手意識があると分析し、「積極的な交流」を示唆されているが、マスメディアの姿勢の問題であるところもある。意図的な情報の操作や誘導は必要なく、その意味においては「苦手意識」を有効に活用することが国民に対する「誠意」へ連結することも考えられるため、このような違和感のある表現は改めてもらいたい。 	<p>アンケート調査において「苦手意識」という表現を用いて調査していますので、このままの表現を使用したいと考えています。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> 「マスメディアへの積極的な対応」として、「意見交換を行う」のは結構だが、緊張感を持って対応すべきであり、決して馴れ合いになってはいけません。 	<p>決して馴れ合いになるということではなく、必要な情報を常に提供し、信頼関係が築けるよう対応していきたいと考えています。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> マスコミは、談合などの不正事件ばかり取り上げて、国土交通省が実際に行っている活動の紹介など好意的な報道はほとんど見た記憶がない。これでは国土交通省（公共事業）に悪い印象を持っても仕方がない部分には同感できることがある。 	<p>そのような社会情勢も踏まえて、積極的な情報発信に努めて参ります。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省内の内部アカウンタビリティも非常に重要である。現時点では、「情報共有」に特定しているようであるが、「内部の委託 受託関係間のアカウンタビリティの重要性」を認識し、実践することが重要であり、これによって内部統制機能が働き、汚職等の事態を回避でき、国民が抱くイメージを改善することにも繋がると思う。 	<p>委託 受託間のアカウンタビリティも含め、内部アカウンタビリティの推進を図ります。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> 5年後を目途にフィードバックとあるが、どのように評価するのか。どのような目標を立てるのか、国民からどれだけの支持を得ることを目標とするのか。 	<p>作成する「行動指針」に示すことが実際に行われているかフォローアップをするとともに、国民にどの程度受け入れられたかについてアンケート調査を行っていきたいと考えています。</p>

	ご意見の概要	国土交通省の考え方
	<ul style="list-style-type: none"> ・行動指針を検討する段階では、職務に応じて情報発信あるいはコミュニケーションする相手や内容、手段などを明確にしていくのがよい。まずは、職員が実践すべきことを設定し、すこしずつ確実に実施しながら PDCA の循環で段階的に発展させればよい。 	<p>常に業務で関わっている人は数も限られ、また国土交通省のことを良く知っている方が多いです。むしろ、常に関わらない方々への情報提供が重要であると考えています。また、今後とも PDCA の実践については努力して参ります。</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> ・他の省庁がアカウンタビリティについて取り組んでいるのか分からないが、この結果を国土交通省から提供して、中央政府を改善してもらいたい。 	<p>国土交通省のホームページ（アカウンタビリティ関連）で公開し、いつでも閲覧可能な状態にしておくとともに、記者発表を行い、周知を図っていきます。</p>
13	<ul style="list-style-type: none"> ・組織論的になるが、意見を出すだけではなく、それを受けて行動することが必要であり、会議をすることや資料を提出することが目的となってしまうように行動することが大切である。物事の本当の目的を忘れずに、常に先のことを考え、実際に何か行動していることが大切である。 	<p>それぞれの行動に際しては、目的を明確に意識することに努めるとともに、国土交通省の使命や役割を認識し、いつでも確認できるような内部の情報共有を図り、「行動指針」の中でも説明していきたいと考えています。</p>
14	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省は国民の声を聞くこと、情報共有が必要であり、「国民とのコミュニケーション」「相手の立場を思いやる必要がある」「相手の立場を考慮」などは、ぜひとも実現していただきたい。 ・国民の印象を良くするために、国土交通省に身近な民間の人たちから意見を聞き、その人たちの考えや思いを把握することで見えてくるものがあるのではないかと。省内だけの会議ではなく、民間の方々を巻き込んだ会議を行ってみたいかと。 	<p>国民の皆様の声を聞き、それに対してきちんと対応していくことは非常に重要なことであり、今後策定する「行動指針」にもその旨を明記していきたいと考えています。</p> <p>コミュニケーション型行政には取り組んでいるところですが、さらに推進するため、具体的な取り組みを「行動指針」としてまとめしていきたいと考えています。</p>
15	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座の実施や相談窓口の設置などにより住民参加の取り組みを推進されているとあるが、まだまだ一部業界や利害関係者のみで一般国民には徹底されていない。 ・出前講座においても頼まれてやるのではなく、積極的に実施してはいいかがか。 	<p>例えば出前講座においては、平成17年度に約1,100回開催され、63,500人の方に参加していただきました。今後もより一層ご理解を深めてもらうよう、アカウンタビリティを積極的に果たしていきたいと考えています。</p>
16	<ul style="list-style-type: none"> ・アカウンタビリティの対象を、地方行政や利害関係者だけでなく、町内会や公民館活動といった末端の地域活動まで広げるべき。 	<p>自治体等とも連携し、一人ひとりに分かりやすい説明を心がけていきます。</p>
17	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな施策の周知や、有事の際の情報提供に重点が置かれているが、通常業務に関する情報提供が弱いのではないかと。 	<p>今回の政策レビューを通じて、通常業務の情報提供にも力を入れていきたいと考えています。</p>
18	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、公益を守りかつ被害を広げないために、ある事業者に関する法違反を告発しているところであるが、国土交通省は未だに処分を行っていない。 	<p>ここでは、ご意見をいただいたような個別の案件についてお答えする場ではありませんので、回答は控えさせていただきますが、今後ともこうしたご指摘に対して対応するべく業務執行を心がけていきたいと思っております。</p>
19	<ul style="list-style-type: none"> ・一方的な情報発信だけでは、なかなか伝わりにくく、「アカウンタビリティをする」ことを目的にしてしまい、「相手がどう理解するか」ということに少し欠けている。この政策レビュー（案）についても知っている国民はほとんどいないのではないかと。 	<p>相手の立場に立った分かりやすい説明や情報提供を心がけていきます。また、本レビューについては、記者発表を行い、その情報の周知に努めて参ります。</p>
20	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性や効果を説明しきれていないため、公共事業を無駄であると感じるのではないかと。「いったい誰が喜ぶのだろう？」と思われるような（誤解されるような）公共事業が不満の根源である。 	<p>今後とも、個々の事業については、十分な説明をするとともに、社会資本整備の必要性および重要性を説明していきます。なお、個々の事業の実施に当たっては、厳格な事業評価を実施し、その事業の効果を客観的に確認しています。</p>